

意思をもったご主人

野崎 留美

ケアマネジャーさんから「少し遠いのですが A 町が遠い理由でどこの訪問事業所も断られて。」と電話で相談をいただき、早速ヘルパーさんに確認すると「行きますよ！」との返事をいただき、そのときから、B さん夫婦と関わることになりました。

B さん夫婦は M 町で木工所を経営していましたが、経営を後継者に渡した後は A 町を気に入って引っ越しをされ、夫婦で民宿を経営されていました。北は北海道、南は沖縄まで沢山の方が来てくれたそうです。また、テレビ局の方も来たそうです。私が訪問している時もその時の話をご夫婦は楽しく笑いを交えて、そのときの情景が浮かぶように話してくれていました。

民宿を辞めてからは夫婦でゆっくり余生を過ごされていましたが、ご主人の体調が悪くなり奥さんの足腰の痛みがひどくなってきたので、介護保険を利用することになりました。訪問診療・訪問看護師・薬剤師・福祉用具・訪問介護の方々が支援させていただきます。私たち訪問は塩分少なめの調理をするのですが、ご主人は気に入らないので怒るのです。奥さんはヘルパーが横向いている間に塩を入れてしまうことが…それが天ぷらにしてもなんでも塩分が効いて美味しいのです。ご主人の体調が良い時は調理場に立って、ぶりをさばいてぶり大根やナスの漬物、つくだ煮どれも美味しいのです。結局塩分を控えることが本当に難しかったです。ご主人は家でお風呂に入るのが楽しみで「死んでもいいから風呂に入りたい。」とよく言われていました。血圧が下がるので、血圧を上げる薬を服薬して酸素を上げて訪問看護師さんが支援してくださり最後まで入浴ができていました。

ご主人は週 3 回透析をされていましたが、私が訪問時に病院から連絡が来て検査の結果が悪いので入院の用意をして来て下さい。」と言われ、ベッドで寝ているご主人に伝えるとうなずかれて「あれは(奥さん)耳が遠いから呼ぶのも体力がいる。トイレのたびに付いて来てくれるけど負担をかけてしまうから病院に行く。」と言われ、娘さんの車まで歩いて乗って病院に行かれて、その二日後亡くされました。最後は病院でしたが、最後までご自分の意思をもってつらぬかれたと思います。B さん夫婦の人生に少しですが携わることができて本当に幸せでした。

